

宮尾益知

指定討論者

五十嵐一枝

「自閉症周辺児のコミュニケーションの発達と特徴」

神尾陽子

「自閉症は増えているか? ~コミュニケーションをめぐるどう理解すれば良いのか~」

2015年6月13日(土) 13:30~16:30
UDXシアター (秋葉原UDXビル4階)

公益財団法人成長科学協会 第28回公開シンポジウム
「自閉症とその周辺 ~子どものコミュニケーションの今~」

演者

神尾陽子 (国立精神・神経医療研究センター児童・思春期精神保健研究部部长)
五十嵐一枝 (白百合女子大学児童文化学科教授)

指定討論

宮尾益知 (どんぐり発達クリニック院長)

司会

児玉浩子 (帝京平成大学教授) / 柿沼美紀 (日本獣医生命科学大学教授)

参加無料
申し込み先着170名

●お申し込み方法

件名「第28回シンポジウム申し込み」に氏名、人数、連絡先(電話番号かメールアドレス)を明記のうえ、成長科学協会事務局までお申し込み下さい。

●お申し込み・お問い合わせ先

E-mail: kimoto@fgs.or.jp
電話: 03-5805-5370
FAX: 03-5805-5371

INTRODUCTION

ごあいさつ



公益財団法人成長科学協会
理事長: 田中 敏章

成長科学協会の「心の発達研究委員会」(委員長: 長田久雄)の活動は、子どもの健全な成長と心の発達をめざす当協会の重要な事業の一つです。

今年は、「自閉症とその周辺~子どものコミュニケーションの今~」というテーマで専門家の神尾陽子先生、五十嵐一枝先生にご提言いただきます。自閉症に関する理解を深めていただき、当委員会の宮尾益知先生の指定討論を含めて、実りあるディスカッションができればと思っております。ご参加の皆様も積極的に発言していただければ幸いです。

タイムスケジュール

- 日時: 平成27年6月13日(土)
テーマ: 「自閉症とその周辺~子どものコミュニケーションの今~」
- 13:30 開会あいさつ
 - 13:35 「自閉症は増えているか? ~コミュニケーションをめぐるどう理解すれば良いのか~」
神尾 陽子
 - 14:25 「自閉症周辺児のコミュニケーションの発達と特徴」
五十嵐 一枝
 - 15:15 〈休憩〉
 - 15:30 指定討論
 - 15:50 質疑応答・ディスカッション
 - 16:30 閉会

自閉症は増えているか？

～コミュニケーションをめぐるどう理解すれば良いのか～

神尾 陽子 / 国立精神・神経医療研究センター児童・思春期精神保健研究部部長

2002年、2012年に文部科学省が実施した全国調査によれば、通常学級の6%強の子どもたちに何らかの発達障害リスクが示唆されている。自閉症、注意欠如・多動性障害 (ADHD) など、発達障害の子どもたちの脳は、母親の胎内にある時から通常とは異なる道筋を辿って発達する。発達の偏りがあることによって、ストレスの多い社会生活においては様々な困難が慢性化しやすく、その結果、うつ病や不安障害など、精神健康も害しやすく、ひきこもりにつながるケースも少なくない。発達障害の症状自体は軽症で児童期に目立たないケースでも、成人後に職場での対人トラブルや結婚生活の破綻など、社会生活に深刻な問題を示すこともある。

自閉症については、早期から発達支援や家族支援をすれば、発達の促進だけでなく、児童期から成人期までの精神健康やQOLの向上につながることもわかってきた。そして環境の影響を良きにつけ悪きにつけ受けやすい発達障害の人々の心の健康は、私たちの社会のパロメーターと言える。自閉症の子どもとのコミュニケーションの特徴や、本当に不安なとき、どういう表現ができるのか、周囲はどういう点に留意して彼らの成長を守り育むのが良いのかについて、最近の国内外の研究からご紹介したい。

自閉症周辺児のコミュニケーションの発達と特徴

五十嵐 一枝 / 白百合女子大学児童文化学科教授

私の年齢に近い世代の臨床家や研究者は、日本における自閉症研究の始まりから、その後の自閉症理解と対応の変遷の時代を経て現在の自閉症スペクトラムの概念に到るまで、時系列で自閉症の臨床と研究を体験してきた。生命科学の急速な発展が見られる現在は、自閉症を含む発達障害の理解や支援方法が、今後さらに大きく変化していく節目の時期にあるように思われる。

私が発達障害の臨床と研究の第一歩を踏み出した頃に幼児であった自閉症周辺児は、現在成人期の年齢にある。何人かの自閉症周辺児については、発達早期におけるアセスメントや治療的教育を実施しながら長期間にわたって縦断的に関わる経過の中で、その変化の特徴を観察することができた。長期フォローアップ事例において、自閉症周辺児の発達過程にどのような要因が関与したか、その結果、彼らはどのようなおとなになったかについて、自閉症周辺児に特徴的な問題とされてきたコミュニケーション行動を中心に振り返り、発達の経過と特徴を明らかにしたい。

演者

神尾 陽子 / かみお ようこ

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部部長。医学博士。京都大学医学部卒業、ロンドン大学付属精神医学研究所児童青年精神医学課程終了、京都大学医学部精神神経科助手の後、米国コネティカット大学 (フルブライト研究員) で自閉症研究に従事した後、九州大学大学院人間環境学研究院助教授を経て、2006年より現職、2010年より山梨大学客員教授を併任。

五十嵐 一枝 / いがらし かずえ

白百合女子大学児童文化学科 (発達心理学専攻) 教授。医学博士。臨床心理士、自閉症スペクトラム支援士、特別支援教育士。金沢大学教育学部卒。日本女子大学大学院修士課程 (児童学専攻) 終了後、東京女子医科大学に小児科児童心理相談員として2001年まで勤務。大学附属病院における心理臨床と、てんかん児の認知発達障害の研究を行った。2001年より現職。2002年～2006年3月、2010年4月から2012年3月まで同大学発達臨床センター長を兼務。

宮尾 益知 / みやお ますとも

どんぐり発達クリニック院長。徳島大学医学部卒業、自治医科大学小児科学教室助教授、国立成育医療研究センターこころの診療部発達心理科医長を経て、2014年4月より現職。専門は小児精神神経疾患、発達障害、高次認知機能障害、てんかんなど。

児玉 浩子 / こだま ひろこ

帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授。大阪大学医学部卒業、大阪大学小児科助手、自治医科大学小児科講師、帝京大学小児科教授を経て現職。帝京大学小児科客員教授兼任。

柿沼 美紀 / かきぬま みき

日本獣医生命科学大学比較発達心理学教室教授。文学博士。専門は子どもの社会性の発達。対象はヒト、チンパンジー、イヌ、ラット。動物介在教育・療学会理事。3児の母、ペットはイヌ、ネコ、カメ。

指定討論

司会